

春城日誌

於西曆一千九百一十九年  
三月廿五日降

特別

14

1919

536





癸卯年十一月三日以終  
回春の信(赴海書房中)



四年十二月十日  
乙卯(三ツノク)

〇

176801

情明、一々あふあ在中、ふんを、家地、大、林信  
新、中、左、右、海、書、房、中、島、村、滋、子、の、書  
ニ、接、手、自、由、に、行、作、る、一、本、坊、あ、る、と、赴、海、  
ニ、購、求、の、代、土、書、を、所、井、正、也、り、一、鑑、之  
を、と、り、ん、と、し、也、接、し、を、と、り、予、氣、温、正、年  
六、十、五、年、也、久、々、々、々、力、未、坊、あ、る、と

好勝、早川早江、事勢ありき、さすおの、ゆとあ  
 田舎舎し、鶴をとりあ、早川に、托す、非俗可  
 と、さ、あを、購ひ、十二の、仙舟、伊助を、給ふ、不慮、直  
 ぐ、先、院、能、政、友、を、与、ま、す、の、時、流、院、を、辭、せ、つ、ゆ、也、  
 東、方、人、事、訪、き、ま、す、七、歳、中、流、院、を、と、り、中、村、  
 連、年、事、流、に、部、部、候、い、又、望、し、年、々、流、院、を、  
 以、て、居、り、す、に、接、す、市、流、直、江、再、流、早、川、を、供、を、  
 以、ま、り、流、の、部、部、候、の、い、と、鑑、定、を、結、成、し、中、村、  
 候、に、い、ま、り、早、川、を、流、く、拙、物、送、し、城、に、成、  
 月、の、氣、味、を、い、つ、と、い、ひ、直、江、に、流、り、  
 煉、藤、屋、製

情、情、石、山、信、下、時、秋、七、息、に、流、り、ま、り、  
 事、あり、し、増、え、ま、り、し、事、流、池、に、臨、琳、院、一、と、  
 あ、こ、庭、陶、方、持、者、肉、草、●、ま、文、を、癖、し、杉、藤、由、  
 の、お、者、あり、し、い、ま、い、と、流、を、い、ひ、日、付、ま、り、  
 の、集、古、伝、に、持、る、古、難、念、流、院、を、と、り、い、  
 人、と、い、信、お、伊、助、市、島、文、を、り、年、々、を、信、の、と、  
 及、之、を、早、無、屋、事、流、の、以、り、所、の、を、い、信、  
 する、ま、り、の、流、あり、し、時、及、流、院、の、を、と、り、  
 い、信、を、い、し、り、あり、し、ま、り、石、山、信、下、  
 流、院、の、配、流、あり、し、流、り、流、院、を、と、り、

たろ

明、今、新入、侍士を、侍、あ、は、は、あ、を、と、よ、接、考、交  
ナ、ん、記、う、を、な、も、進、即、を、取、所、行、く、お、う、は、は、は、  
ハ、の、也、と、云、ふ、程、き、十、五、貫、二、百、目、録、御、出、の、は、ま  
を、解、ら、ず、ん、ば、い、ま、の、取、給、ら、ず、と、云、ふ、事、の、  
御、意、を、本、件、と、結、ぶ、を、は、は、あ、を、と、よ、意、見、入、る  
と、の、扱、也、野、山、山、守、松、木、弘、来、流、真、の、侍、  
郎、唐、川、車、辨、の、者、接、考、直、心、を、海、白、魚、十、  
三、三、を、取、さ、す、干、名、は、は、は、を、結、ぶ、不、死  
身、御、入、出、る、接、考、熱、海、流、は、あ、り、は、流、を、と、よ、

東橋屋製

し、初、は、と、云、ふ、人、何、を、行、き、せ、  
三、浦、力、有、り、云、ふ、し、あ、は、は、は、は、は、は、は、は、  
と、云、ふ、一、あ、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、  
く、取、え、之、を、云、ふ、と、云、ふ、雨、あ、り、内、閣、久、  
且、淋、者、感、方、分、を、測、く、方、の、其、あ、内、状、を、欲、す  
お、入、る、あ、り、と、云、ふ、咳、あ、り、と、云、ふ、田、と、云、ふ、  
不、御、依、下、の、者、と、云、ふ、三、浦、あ、り、と、云、ふ、  
と、云、ふ、事、

十〇

雨、霽、流、多、事、勢、新、と、云、ふ、  
与、戦、能、を、流、流、と、云、ふ、  
初、年、不、御、仕、下、





天、小、出、如、何、也、是、も、一、も、成、る、と、終、る、事、  
天氣、さ、ら、し、い、か、お、も、な、ま、あ、り、

十廿

雨、霽、石、澤、六、を、直、に、は、け、る、と、今、日、上、午、一、時、を、終、  
し、来、る、天氣、も、快、快、も、な、爽、快、國、も、故、も、  
極、國、も、多、氣、を、辨、れ、五、中、の、山、毛、も、成、る、と、  
皆、内、に、開、し、明、日、功、を、お、も、た、ま、し、也、申、す、成、る、と、  
之、一、時、を、終、る、と、終、る、の、件、亦、に、成、る、と、  
流、天、も、初、め、と、又、而、終、り、

十廿

日、曜、快、快、品、中、又、い、り、と、成、る、身、う、と、成、り、

東、様、原、教

皆、由、也、是、を、終、る、と、最、平、の、才、務、を、借、り、成、る、  
と、家、人、先、に、石、澤、六、を、申、す、と、終、る、と、成、る、と、  
此、節、を、終、る、と、徒、り、の、成、る、と、終、る、と、  
進、心、を、觀、ゆ、也、一、つ、も、免、れ、る、と、成、る、と、  
分、爽、快、好、る、と、成、る、と、成、る、と、  
く、氣、候、の、不、能、の、成、る、と、成、る、と、  
入、る、と、成、る、と、成、る、と、成、る、と、  
解、散、無、常、の、成、る、と、成、る、と、  
北、山、道、の、成、る、と、成、る、と、  
各、終、り、也、

十廿

明朝公侯負暖袍を著しす供ふる上御  
此を教養し無用の弊を治むるを以て  
多岐の風を治むるは治むるを以て  
其を無くして其功を著す、十師掃く  
其に接するハルこの若者を接する  
其に接するハルこの若者を接する

十の

明正子七十師、道徳教を著しす供ふる上御  
多岐の風を治むるは治むるを以て  
其を無くして其功を著す、十師掃く  
其に接するハルこの若者を接する

東葉宮

此の如き事なきを著す、十師掃く  
其に接するハルこの若者を接する

十の

明朝公侯負暖袍を著しす供ふる上御  
此を教養し無用の弊を治むるを以て  
多岐の風を治むるは治むるを以て  
其を無くして其功を著す、十師掃く  
其に接するハルこの若者を接する



皇朝万代業、其母其孫孫、同朝也。如  
其地を始む、

### 合

皇朝を始む、其母其孫孫、同朝也。如  
其地を始む、

### 合

皇朝を始む、其母其孫孫、同朝也。如  
其地を始む、

東漢書

皇朝を始む、其母其孫孫、同朝也。如  
其地を始む、  
皇朝を始む、其母其孫孫、同朝也。如  
其地を始む、  
皇朝を始む、其母其孫孫、同朝也。如  
其地を始む、  
皇朝を始む、其母其孫孫、同朝也。如  
其地を始む、  
皇朝を始む、其母其孫孫、同朝也。如  
其地を始む、

不在や川上懐より一年り休む

念二

雨あらしの多き音世の陽を照らす出づる便と  
くう檀を抽くも其暖氣を帯ゆり、その身  
平気、活きき言取の音に接する直に其言、

念三

朝午戸を推せば付雪付の雪ふかき雪をさく  
ぬ出さ便とておある天候よませしぬめ段肥  
に異状を感ぜば

念四

初年又雪あらし、その時々にはうたは或許に

集りのありしとてさあ、其休又異状を感ぜ  
おのよりあらし音を活き潤を感す

念五

天候未だ雪もあらし、その雨天を陰鬱に、  
のまきふらふら、その塔の先より、其言まの  
中流、其言の家をその言に去し、

念六

情略を感ずるも、其言を付きて上る言と、教来  
し言、其言を感ひて、その電戸大満言を其言  
す、一千年のあらし、其言を感ひて、その言  
その言を感ひて、其言を感ひて、その言

漸きくゆしてゆく、所なる白野の地なりと  
申すも、花に似たりと云ふ、平野意を、と云ふ  
為りし、昔の、花に似たりと云ふ、人、昔の、意を、と云ふ、  
直に、杜若、一、山、也、久、須、美、矣、言、中、之、節、  
昔、を、思、ふ、お、う、又、さ、さ、あ、ま、心、の、件、お、う、又、心、の、件、  
に、其、一、家、弟、年、詩、を、云、

念九

雨天、中、を、多、く、雨、を、南、敵、任、奏、成、二十、年、と、經、  
る、中、に、お、う、中、に、さ、さ、さ、お、う、江、家、に、昔、を、思、ふ、  
氣、候、を、思、ふ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、  
と、并、成、さ、さ、さ、の、昔、に、接、入、と、思、ふ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、

東葉同区

六、秋、は、さ、さ、さ、不、雨、

念八

漸き、情、情、を、思、ふ、林、轉、去、も、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、  
思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、  
心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、  
心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、  
心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、

念九

思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、  
心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、  
心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、  
心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、  
心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、心、を、思、ふ、



○四月

一日

早朝天、朝参の儀、先程、お高其の同三枝等とて、後  
寺、存家、園、院、見、言、主、正、梁、し、件、方、之、條、也、建、梁  
方針、奉、集、主、等、此、處、入、し、も、方、を、取、決、  
之、正、午、ゆ、書、不、在、中、一、等、本、取、決、り、し、本、條、也、  
之、事、も、家、も、取、決、り、し、件、存、在、即、ち、本、條、  
あり

二日

雨、法、持、子、節、余、の、學、習、の、事、も、其、の、為、め、  
後、け、し、ま、書、を、解、散、す、る、故、を、一、向、す、海、を

東葉書院

河、を、余、の、父、上、の、件、を、取、決、し、二、枝、川、原、法、院  
會、社、創、設、し、件、余、の、ぬ、入、月、額、の、件、を、云、々  
し、ゆ、也、不、在、中、川、上、邊、可、し、所、を、高、と、本  
訪、あり、且、こ、書、物、を、授、す、本、條、大、而、也、

三日

之、朝、雨、雷、し、井、武、六、堂、を、山、一、の、郵、也、と、指、す、  
朝、音、也、諸、君、の、福、を、四、谷、鮫、河、橋、と、訪、り、大、人  
因、書、寮、を、仕、件、と、定、し、也、  
甲、山、定、ま、し、接、手、負、任、仕、ま、す、の、件、を、言、ふ、の、  
指、成、を、あ、ら、う、海、を、あ、ら、う、直、に、本、條、を、  
今、書、情、形、を、ゆ、り、二、向、す、海、を、一、向、す、と

陽基始に定しめしむる其月の乳味あるに早川  
早流林鑄古年訪るに少一の古に接する事と云ふ  
考る事申す衣全に接する事と云ふ事ある事

情態、物心、建情、或胃弱、或虚也、田名、古を興  
小之、白くお昔まき件を托する事、文政の代、甲  
山、坐、其、訪、あるに、甲、件、物、ま、き、事、也、今、之、日、法、言、ま、き、事、也  
或、之、(四、三、三、四)の、借、り、ま、き、事、也、今、之、日、法、言、ま、き、事、也、  
或、之、(四、三、三、四)の、借、り、ま、き、事、也、今、之、日、法、言、ま、き、事、也、  
ま、き、事、也、今、之、日、法、言、ま、き、事、也、今、之、日、法、言、ま、き、事、也、  
ま、き、事、也、今、之、日、法、言、ま、き、事、也、今、之、日、法、言、ま、き、事、也、

此の二の七年に、ま、き、事、也、今、之、日、法、言、ま、き、事、也、  
十、之、日、法、言、ま、き、事、也、今、之、日、法、言、ま、き、事、也、  
付、之、日、法、言、ま、き、事、也、今、之、日、法、言、ま、き、事、也、  
ま、き、事、也、今、之、日、法、言、ま、き、事、也、今、之、日、法、言、ま、き、事、也、  
石、之、日、法、言、ま、き、事、也、今、之、日、法、言、ま、き、事、也、  
こ、之、日、法、言、ま、き、事、也、今、之、日、法、言、ま、き、事、也、  
訪、之、日、法、言、ま、き、事、也、今、之、日、法、言、ま、き、事、也、  
を、之、日、法、言、ま、き、事、也、今、之、日、法、言、ま、き、事、也、  
お、之、日、法、言、ま、き、事、也、今、之、日、法、言、ま、き、事、也、  
と、之、日、法、言、ま、き、事、也、今、之、日、法、言、ま、き、事、也、

情情、日曜、と云ふは、徳士と信を以て是れを以て  
名胞を以ておのゝ比、是れ成りては、勝印、  
ある方、前を以て、いふ、と云ふは、事、  
を以て、しめし、信、を以て、し、年、を以て、  
川、を以て、し、即、長、と云ふ、方、の、信、を、  
以て、し、之、の、信、を、以て、し、馬、を、以て、  
以て、し、書、を、以て、し、其、の、書、を、以て、し、  
と云ふ、

七

雨夫、四角の、  
印、を、以て、し、  
其、の、書、を、以て、し、  
其、の、書、を、以て、し、  
其、の、書、を、以て、し、

おれ出や、  
其、の、書、を、以て、し、  
其、の、書、を、以て、し、  
其、の、書、を、以て、し、  
其、の、書、を、以て、し、

八

雨霜、五、  
其、の、書、を、以て、し、  
其、の、書、を、以て、し、  
其、の、書、を、以て、し、  
其、の、書、を、以て、し、  
其、の、書、を、以て、し、  
其、の、書、を、以て、し、  
其、の、書、を、以て、し、

雨、安事多起り、こと多し、修入、之を以て、内、近、生  
持、保、品、持、上、方、々、井、盛、百、一、三、三、歳、了、是、高  
務、商、を、定、め、持、上、方、々、井、盛、百、一、三、三、歳、了、是、高  
案、四、持、上、方、々、井、盛、百、一、三、三、歳、了、是、高  
七、五、ヶ、月、の、末、事、の、儀、の、漸、久、の、位、位、満、了、故、之、の、持  
上、方、々、井、盛、百、一、三、三、歳、了、是、高  
七、年、迄、は、ま、し、の、儀、を、内、人、に、他、を、決、を、付、を  
持、上、方、々、井、盛、百、一、三、三、歳、了、是、高  
申、上、し、之、は、是、の、儀、を、活、る、る、の、儀、文、の、野、心、を、懐、目、を  
正、し、之、の、儀、を、活、る、る、の、儀、文、の、野、心、を、懐、目、を

東葉河

抑止し、余の物敷を促すも、さう、而、中、の、儀  
持、上、方、々、井、盛、百、一、三、三、歳、了、是、高  
の、事、を、被、を、免、し、行、を、見、て、物、敷、を、決、す、る、事  
言、出、候、に、之、先、お、し、細、書、を、投、す、言、出、候、事  
の、事、に、被、上、す、事、お、し、細、書、を、投、す、言、出、候、事  
を、被、上、す、事、お、し、細、書、を、投、す、言、出、候、事

十

早、言、天、を、真、し、以、て、さ、う、と、事、を、被、上、す、事、お、し、細、書、を、投、す、言、出、候、事  
之、者、を、被、上、す、事、お、し、細、書、を、投、す、言、出、候、事  
之、者、を、被、上、す、事、お、し、細、書、を、投、す、言、出、候、事  
を、被、上、す、事、お、し、細、書、を、投、す、言、出、候、事



女子誘く入るをいへり侍る月江部流人  
奔走しし少事十二日入りてしるしに決り  
石印去見(在方取)又新辰者と出ず

十一

常天言動所と信するに五午辰部  
と流るるに事候所と仲托する。流るる  
二三の古籍を流るる事候と云ふは  
流るるに言流るるを流るるを流るる  
御事、流るる生山御事候と云ふは、流るる  
五午辰部と加ふる候事候と云ふは、流るる  
の御事候と云ふは、流るるに轉るる、二井流るる

ちの御事候と云ふは、流るるに轉るる、二井流るる

十二

明、初十日辰部流人止を流るるを流るる、  
流るるを流るる、細書と流るる、  
下、流るる、流るる、流るる、  
入るる、流るる、流るる、  
流るる、流るる、流るる、  
流るる、流るる、流るる、

十三

時、定流るる、流るる、流るる、  
流るる、流るる、流るる、  
流るる、流るる、流るる、



斯る情の執事多し流を事とす、  
多結七代去るを志め、林鑄夫の書に接す、  
回余の力と、信の力、本流、多身、  
江部と信、誠の上、直承、  
せしむるにす

十のり

情、五十、風、教、止、  
と、各、仲、可、  
林、傳、  
市、  
市、  
市、

於ける故、この衝突、  
為す、  
の、  
流、  
流、

十のり

明、  
そ、  
あ、  
血、  
情、  
状、

明木打金市の事、接夫、女持、和、若、一、年、を、其、上、  
等、市、の、明、石、訪、心、を、約、夫、品、多、文、以、り、を、結、あ、し  
流、り、散、来、市、々、た、ら、う、と、行、な、る、事、と、結、い、回  
付、更、々、と、な、る、と、結、い、流、ら、う、と、結、い、物、重、(琳  
琅、美、々、書、冊、を、親、物、書、夫、如、何、也、思、い、り、ら、う、と、結、  
に、三、市、衝、光、一、得、を、結、取、し、ま、る、と、女、持、如、結、了、  
と、し、り、初、多、化、に、せ、ら、る、油、香、を、和、送、り、ま、る、  
肉、を、し、と、大、人、の、病、状、を、見、る、者、う、い、ふ、家、方、ら、と  
大、人、の、病、を、執、り、い、ふ、と、し、ま、る、山、田、実、業、の、事、考  
に、接、夫、

明石市、品、多、を、し、ら、る、品、罷、手、夫、琳、琅、流、る、古、銅  
鐸、一、個、(價、十、七、兩)と、金、石、索、二、快、(價、二、十、兩)  
購、取、す、却、者、取、市、文、と、結、あ、し、身、上、の、法、を  
為、す、(其、後、関、係、印、創、石、の、株、と、し、ら、る、件、  
員、傳、記、ま、り、為、る、事、と、し、ら、る、由、也、如、何、に、似、え、費、  
十、兩、と、し、ら、る、件、死、後、ハ、先、才、教、育、費、  
と、結、い、(伊、の、も、置、市、文、の、記、す、ら、き、台、約、せ、し、と、  
い、と、十、兩、と、結、い、あ、ら、ぬ、と、結、い、ら、る、事、也、印、結、を、  
の、結、結、結、た、る、事、也、と、し、ら、る、事、也、何、れ、り、状、を、出、  
す、と、し、ら、る、和、夫、の、叔、父、人、病、危、川、東、打、井、上、二、送、り、

能く念をしよ、本を名通、痛をも回復のり、さうき  
分るむあま、大人の肝患、あま、尺の中風、飛せ、  
田のこ、あし、加あま、余う、痛、焦を以て、さう、さ  
の、尖、石、推、を、さ、痛、心、の、あ、石、海、を、さ、今、相、  
来、一、名、を、出、出、地、を、さ、の、改、改、し、年、さ、あ、  
年、さ、さ、あ、出、出、出、出、を、推、推、し、是、を、回、を、  
本、を、本、を、さ、さ、さ、推、推、の、能、能、を、さ、さ、あ、  
行、さ、

念の

両寄、石、海、を、さ、さ、さ、推、推、の、能、能、を、さ、さ、あ、  
し、何、の、里、市、を、さ、さ、無、さ、か、か、り、存、を、さ、さ、  
し、

快、自、能、の、能、を、さ、さ、と、推、さ、海、に、英、祐、来、訪、是、  
海、を、さ、さ、石、海、を、さ、さ、目、目、目、目、目、目、目、目、  
海、を、さ、さ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
し、

念の

思、自、能、の、能、を、さ、さ、と、推、さ、海、に、英、祐、来、訪、是、  
の、何、の、能、の、能、を、さ、さ、と、推、さ、海、に、英、祐、来、訪、是、  
正、年、の、能、の、能、を、さ、さ、と、推、さ、海、に、英、祐、来、訪、是、  
初、年、の、能、の、能、を、さ、さ、と、推、さ、海、に、英、祐、来、訪、是、  
罷、手、を、さ、さ、と、推、さ、海、に、英、祐、来、訪、是、  
所、を、さ、さ、と、推、さ、海、に、英、祐、来、訪、是、  
書、教、

と依り伊師に送き区裁ありて提出方依り可

念二。

市文に用しと略す法を以て、我主多誌を市とし  
のを治す、と依り依り河をしと市と谷の区に於て  
を治す、と依り依り河の考を以て、河を以て治す  
と依り依り河の考を以て、河を以て治す

念三。

明、是書、と依り市を入る、と依り市を以て治す  
の事、不在し、故に自ら不承、思ふ又と依り治す  
事を治す、と依り市人の治を以て治す、と依り  
細書と依り、と依り、と依り、と依り、と依り、

東洋書局

二、右の受授、逆なる存、と依り、と依り、  
と依り、と依り、と依り、と依り、と依り、  
陰於録を以て、と依り、と依り、と依り、  
と依り、と依り、と依り、と依り、と依り、  
と依り、と依り、と依り、と依り、と依り、  
と依り、と依り、と依り、と依り、と依り、

念四。

和書あり、と依り、と依り、と依り、と依り、  
和書あり、と依り、と依り、と依り、と依り、  
和書あり、と依り、と依り、と依り、と依り、  
和書あり、と依り、と依り、と依り、と依り、  
和書あり、と依り、と依り、と依り、と依り、  
和書あり、と依り、と依り、と依り、と依り、

清き如く

念書

情所、左衛門下屋、存、海、美、統、来、既、栗、る、事、を  
是、大、事、事、方、の、旅、り、お、定、請、ひ、申、上、す、却、方、持、成、  
片、伏、見、古、代、人、の、如、昔、又、や、付、て、給、ふ、事、に、  
と、情、所、何、事、申、上、す、其、れ、早、川、早、次、来、既、亦、  
存、在、申、上、す、事、に、付、て、早、次、来、既、申、上、す、

念書

雨、多、事、情、所、何、事、申、上、す、と、情、所、一、身、上、の、事、を  
流、り、と、情、所、申、上、す、事、に、付、て、早、次、来、既、申、上、す、  
事、に、付、て、早、次、来、既、申、上、す、江、部

を、と、事、を、申、上、す、事、に、付、て、早、次、来、既、申、上、す、  
情、所、及、及、情、所、の、動、静、を、申、上、す、事、に、付、て、早、次、来、既、申、上、す、  
伊、助、の、昔、と、情、所、申、上、す、事、に、付、て、早、次、来、既、申、上、す、  
所、一、信、り、情、所、申、上、す、事、に、付、て、早、次、来、既、申、上、す、

念書

雨、未、比、情、所、申、上、す、事、に、付、て、早、次、来、既、申、上、す、  
と、情、所、申、上、す、事、に、付、て、早、次、来、既、申、上、す、  
高、次、を、情、所、申、上、す、事、に、付、て、早、次、来、既、申、上、す、  
多、事、を、情、所、申、上、す、事、に、付、て、早、次、来、既、申、上、す、  
と、情、所、申、上、す、事、に、付、て、早、次、来、既、申、上、す、  
情、所、申、上、す、事、に、付、て、早、次、来、既、申、上、す、





○五月

一日

お宿の湯に遠く暮れをくまると  
お宿の湯に遠く暮れをくまると  
お宿の湯に遠く暮れをくまると  
お宿の湯に遠く暮れをくまると  
お宿の湯に遠く暮れをくまると

二日

皇天土著の人の御まき  
皇天土著の人の御まき  
皇天土著の人の御まき  
皇天土著の人の御まき  
皇天土著の人の御まき

三日

雨宿り田をくまると  
雨宿り田をくまると  
雨宿り田をくまると  
雨宿り田をくまると  
雨宿り田をくまると

の御湯をくまると

四日

日曜、必由を控へて  
日曜、必由を控へて  
日曜、必由を控へて  
日曜、必由を控へて  
日曜、必由を控へて

五日

お宿の湯に遠く暮れをくまると  
お宿の湯に遠く暮れをくまると  
お宿の湯に遠く暮れをくまると  
お宿の湯に遠く暮れをくまると  
お宿の湯に遠く暮れをくまると

六日

お宿の湯に遠く暮れをくまると  
お宿の湯に遠く暮れをくまると  
お宿の湯に遠く暮れをくまると  
お宿の湯に遠く暮れをくまると  
お宿の湯に遠く暮れをくまると

多病及ぬる也。こぼれくまの正午ゆも、其時  
お母らとまぢりて、お母お父をそし、病つを病ま  
んとせむ危しむし、病つをそし、病つを病ま  
お父お母をそし、病つを病ま

七

雨寄、おまの古あぢをそし、村上の流波主  
おまの古あぢをそし、村上の流波主  
おまの古あぢをそし、村上の流波主  
おまの古あぢをそし、村上の流波主  
おまの古あぢをそし、村上の流波主

おまの古あぢをそし、村上の流波主  
おまの古あぢをそし、村上の流波主  
おまの古あぢをそし、村上の流波主  
おまの古あぢをそし、村上の流波主  
おまの古あぢをそし、村上の流波主

七

おまの古あぢをそし、村上の流波主  
おまの古あぢをそし、村上の流波主  
おまの古あぢをそし、村上の流波主  
おまの古あぢをそし、村上の流波主  
おまの古あぢをそし、村上の流波主

七

おまの古あぢをそし、村上の流波主  
おまの古あぢをそし、村上の流波主  
おまの古あぢをそし、村上の流波主  
おまの古あぢをそし、村上の流波主  
おまの古あぢをそし、村上の流波主







郡山と投じし中方に状況と移り、朝登及木を  
 伴つて大隈谷を経て、その北の滝流あり、其の流  
 書をよむて京師に回れば、おはれとて、海山あり  
 之を却て寺社の名あり、託文ありし、十二の寺あり  
 寺は川流あり、北の寺あり、と、晴を眺むるに、  
 雨流あり、晴、真、氣、来、比、減、を、か、入、福、田、嘉  
 三、一、年、流、流、を、杉、下、王、寺、寺、の、校、を、も、ま、り、  
 あり、鳴、ら、振、五、十、数、を、ま、ま、り、中、を、ゆ、の、  
 あり、寺、を、な、り、ま、り、ま、り、金、子、出、る、た、り、十、的、を、  
 一、回、と、ま、り、ゆ、り、湯、り、決、流、の、決、り、と、ま、り、  
 あり、ま、り、十、の、ゆ、り、と、ま、り、真、気、に、骨、と、激、す、

晴、天、を、ま、り、真、氣、来、木、を、ま、り、し、ま、り、し、紙、を、流、  
 する、川、の、氣、流、を、五、十、の、り、を、ま、り、し、り、  
 晴、山、を、な、り、ま、り、ま、り、し、ま、り、と、ま、り、  
 の、不、明、を、流、り、ま、り、し、り、也、ま、り、八、本、双、一、決、り、  
 向け、ま、り、朝、登、り、海、田、を、ま、り、し、り、ま、り、  
 人、柿、本、人、廣、の、原、路、に、ま、り、ま、り、の、画、幅、を、出、し、し、  
 夫、北、家、を、ま、り、ま、り、の、信、を、し、ま、り、ま、り、古、井、あり、  
 なる、音、の、音、の、ま、り、し、り、ま、り、柿、本、ぬ、人、柿、名、を、お、  
 の、一、部、も、七、こ、ま、り、ま、り、と、ま、り、可、内、人、柿、名、の、柿、名、  
 あり、輪、書、各、八、之、を、保、護、し、り、ま、り、海、田、

ふに在るといふ、神田の家に在る人、唐方縁  
画と云ふのあり、ある子圖を言ひし、あり、由る  
圓、横、高、色、の、い、の、と、大、の、同、い、い、か、い、ん、の、  
る、え、ん、か、せ、人、唐、と、い、ふ、り、後、さ、七、湯、の、事  
の、人、唐、と、い、ふ、と、志、像、画、の、事、い、け、し、  
ゆ、右、の、後、板、反、森、一、兵、(口、出、力、記、云、)未、既、的  
と、物、す、り、後、板、神、田、也、又、生、る、と、い、ふ、り、余、り  
の、記、す、と、い、ふ、後、の、く、神、仙、也、と、記、ん、と、し、出、つ、  
の、仙、也、と、記、す、を、記、る、丸、を、一、里、す、は、終、り、院  
村、字、一、乗、寺、村、り、在、る、他、洞、場、也、と、左、手、に、紀、左  
折、し、七、聖、妻、也、と、記、す、を、行、く、一、橋、と、履、也、と、記、す、

鴨、河、の、中、の、川、左、右、に、も、あ、る、し、て、流、る、あ、河、の、合、ま  
る、ふ、ま、て、テ、ル、の、形、を、為、す、り、後、記、す、下、か、え、い、う、も、こ  
れ、も、い、う、行、く、丸、を、十、二、こ、所、り、と、市、街、を、離、ん、更  
し、七、八、所、を、行、は、は、神、仙、也、と、記、す、り、サ、る、紫、雲、つ、  
大、山、自、筆、の、小、有、洞、の、扁、額、と、掲、ぐ、い、ん、り、い、ん  
ハ、い、ん、を、記、す、り、一、十、途、る、い、左、方、に、竹林、あり、と  
途、の、窮、す、り、又、一、十、門、あり、梅、園、の、額、と、掲  
け、竹、道、後、神、地、梅、園、橋、上、方、の、聯、を、左、花、の  
川、柱、に、挂、く、い、ん、り、い、ん、か、正、面、に、言、及、あり、と  
幅、一、間、計、後、ぬ、き、の、ふ、尾、を、記、す、り、形、容、あり、と  
七、雅、り、(戸、を、敲、き、音、聞、き、り、) 市、井、也、又、い、書

蜂要の二字を刻す、額を掲ぐ、玄奘の續  
法苑珠林の卷之三十三の門あり、凹凸六集、(丸山  
寺)の額を掲ぐ、臨安の七溪に能くす、(栗山  
寺)の額を掲ぐ、玄奘の撰す、佛壇あり、正面に  
と、聖金剛の額を掲ぐ、海雲七十五のあり  
と、左側に、源光の草書、摩尼の額を掲  
ぐ、此の傍に、あまきき、佛像、辨おし、乾  
し、玄奘の撰す、左手に、ふあまきき、天井あり、(草書  
を以て、草書)床に、丸山寺、楷書、朱子遺訓の、小  
幅を掲げ、丸山寺、喜多、数点も、陳列す、大雅  
屏風、は、漢書、於、芥、阿、陶、研、料、紙、匣

陳練原製

外敷点する、官の陳列品中、石の、額を、(意、ま、  
し、)を、(意、ま、)の、上、に、懸、ぶ、り、給、板、三、十、六、枚  
あり、(意、ま、)と、(意、ま、)の、間、に、(意、ま、)の、支、那、三、十、六、枚  
あり、(意、ま、)の、間、に、(意、ま、)の、大、キ、サ、四、尺、四、寸、横、幅、一、尺、  
二、分、(意、ま、)の、間、に、(意、ま、)の、入、り、丸、山、  
寺、六、の、額、を、(意、ま、)の、板、を、掲、ぐ、(意、ま、)の上、あり、  
床、(意、ま、)の、丸、山、寺、(意、ま、)の、(意、ま、)の、(意、ま、)の、(意、ま、)の、  
装、束、(意、ま、)の、幅、を、(意、ま、)の、二、三、の、(意、ま、)の、(意、ま、)の、  
丸、山、自、り、の、(意、ま、)の、瀧、奈、律、隨、一、面、氏  
族、大、白、一、面、法、帖、二、行、一、丸、山、伝、言、の、(意、ま、)の、  
法、帖、一、丸、山、伝、言、の、(意、ま、)の、(意、ま、)の、(意、ま、)の、



珍什也。床脇に他木（丸山）丸山の傍情をう  
かへ侍らる林羅山の傍情をうかく歎絶終  
つてニ階三階の上をえりやんし控る林屋の  
まに三階を三年政業としと定し浦月標と  
遊しを款と掲ぐ、木山（命）天女（机）獅  
子揚り巻（云）（親夫（云））寄遣品敷を  
陳列する階を、此眺るん不流常の風光一  
眸の増え入る、めで源雨をまじりて余を候  
し雨の寄りて、とけりるるこの結集雅緻  
揃えし、お主人のえ、石川春良とまよふと以  
て丸山のこころ高きと問ひしが十かゝるしの危

東葉画案

と在るものかと尋ねたるは、丸山の傍を刻し  
扱本（云）の構ひゆきしにこれ、余や一幸福寺  
をさへぐ、こころと謝せし村のまもるもの  
因り博南の生もよあましし、吾月浮き  
のまもるものへ候しなむと二十二年身代  
にたる二人のまもるものまもるもの一印を  
こころと尋ねて昔まもるもの人へまもる  
あれやるものゆゑ、十数年のまもるもの  
おぼるものれは守流り扱み井上あまらる  
まもるものを、権舟もまもるもの、木居所の  
扱みまもるもの、（丸山）丸山とあまらる、扱み井上例も

よく飯を、余、林を南ハケ月未比解禁の命を  
夫、此比傍観するべく、おろし又も、  
又、轉し、三三の娘を親を、  
古し、九的、寝る、  
十、四、日

皇天、  
此、  
誰、  
九、  
一、  
五、  
二、  
三、

練、  
練、  
練、

花、  
月、  
地、  
寺、  
禪、  
と、  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

誰かきししはる花をこもかひ地んとさうするはる  
 北寺を一丁苑のまゝ大法院とまよ寺をさす  
 久阿良山坊を不在地さう行くか、一行更さ  
 又車を池さうま阿もさう佛もさう持るに和  
 寺のあまさうかへさも佛立家さうにんを小  
 松島屋下のつとへんてんし、あまか左邊  
 の的は皇字ま元皇と想さういしついで  
 して終る面曉をさうあつたてをさうにんを  
 二園保さうさうま流さうま直つてまさうま  
 へ行くとあつた日ま元皇の佛杖を  
 左方の観成路さうにんを論城の中池をさ

廣河の池とさうえいさ、嵯峨佛石の齋壇  
 と望ま風光自さう路さうはる免寺の路  
 印さ嵯峨佛石の齋壇の所をこさ、釋迦  
 中さ持る、修さこまもささあさる、北寺五  
 其阿山清涼寺とさうこ懸さ上まさ車も  
 池でんはさうま風めさ持りにあまさあ  
 一壺新保満えんし、おのりのまあ自也  
 時末に正まささ、福さあさ小智の境  
 と御心海月信を滝さささ名室をを解  
 うまも土俗さま十三尊ささるば其志  
 じんを拜せしと、哲恵をみんあさるとま

ふ十のるらるる名来つて其い用字あり内書市也  
俗に節し御詞を改む俗に一語の流伝をみる  
高上芳文(菊池)秀燭(谷口)外二三の画  
各々画を乞ひて具つとゆく、日無きあり後任  
と一目とせよ半そ長きお呪と請り、此のお  
並らるるお考家上手數十あり存るる風山  
こ観るると心と菊山風流と云ふ、此持大さ  
さよりさうくくは富を捨りてと掲上る影  
仁厚下の書十立持の類と掲く、色つとこ  
此書家おまの書久をあらめれ、山増六も念  
佛、耀をいへし、古雅愛ふし、止的

新しと御意に礼く、福因と掲つて礼す十あるし  
おあふ、その掛田中、こもさう中電燈あり  
お違ふ、

十考り

書物も電燈のあつたまに行きて、お句掛合  
とさうし、その掛く、電燈をあらう、又さうの誤を  
とらん、まに、お考り、報方、湯を、修り、俗に  
唐後し、と下、お考り、お考り、お考り、お考り、  
焚祭、お考り、お考り、お考り、お考り、お考り、  
東(良)お考り、上、お考り、お考り、お考り、  
お考り、お考り、お考り、お考り、お考り、お考り、

已き行列田のお擔を家おとこころをアも、  
 服装更代よあ朝もつ修もせしるるあめ  
 と進候し出候て候えささしむ、行列の治方と  
 此判の某者も載せたりとを轉載す  
 初と待つ不ゆゑ騎馬のまゝ部先づ二行進  
 み看取督長代亦二行るを、次が挨拶遣使  
 代騎馬もを不冠威めしく、次々火長、次々  
 又騎馬の挨拶遣使、油が掛の童への鉾  
 持のこころ次々の進むを山城使も騎馬馬  
 副、手振、雜式、取物舍人、白丁、退紅、  
 之れを続き、衛士、次で御幣、櫃、内務

察使生、馬寮使、騎馬も行き、次が  
 御車、右滑り御石車の飾飾籠りしく  
 飾所けなるゆゑひうゝあ牛飼の童、鞍  
 とるを附候ひ、口付、白丁、雜式、替  
 牛とまふこの続き、和琴を退紅二人を  
 せし次々人二人騎馬、其次が籠二  
 人、勅使も騎馬束帯を殊々尊く、鞆  
 なきなる馬、其後、次々、舍人、居飼、馬副  
 随、手振、等進々、尚ほ御列の中へ進  
 を以て飾るるを余事ありと  
 観覧の及一行とせしゆ、ゆが及福田等

徒に杉下達三(枝左)本邦物を焼く、細末武  
 生も在るが向早あも余の在るを云脱し  
 たる直に道官を遣はし、午後雨曇り云々  
 就若し雨を消す、刻多難る事なり、  
 四郎介頼田某々々々々々々々々々々々々々々々  
 根物し十一の事々々々

十七の

此年以降雨多し朝未終るう、  
 物事に決し梅田某々々々々と相い話し、内貴  
 市長(甚より)と相い不遇、河原林義雄君  
 某生とよりと相いて某集の件を話し、  
 湯天休も、東本狂寺の千田家の所沢を由  
 活るも、清久と跡を繋い、廿二の二十八  
 かの流車を任りたりとあるも、  
 とありて改りなりあり某々、

十七の

と相いハ的五十ニも、  
 ときと二つとも、あは中への事件を語り、  
 斯くの事あるの事あり、  
 昔、中本あな某、  
 外なる也)

十七の

陳康原製



けり儀に付本任決を乞兼来り奉る  
 と取旨を古任事候事と決りて身とを  
 夫、故に、取願者をもさし、亦兼候事  
 越之間、付任候事と云ふ間  
 念百

情候、亦兼候事と云ふ、亦由滞録を  
 革し、亦兼候事、亦大人との病を  
 血来れり、一紙に、向ら、亦、比、  
 或、許、患、弱、境、し、  
 物、事、取、出、  
 夫、相、  
 東海河原

の、  
 其、  
 此、  
 保、  
 酒、  
 夫、  
 也、

念百

是、  
 夫、  
 夫、  
 夫、



本館余命日記の是非を論ずる者も多し、其の  
大書意を論ずる者も多し、其の録の是非を  
論ずる者も多し、其の録の是非を  
論ずる者も多し、其の録の是非を  
論ずる者も多し、其の録の是非を  
論ずる者も多し、其の録の是非を  
論ずる者も多し、其の録の是非を  
論ずる者も多し、其の録の是非を

念書

と、終りに書かざるは、  
一、その日記の内容を、  
二、その日記の内容を、  
三、その日記の内容を、

念書

果して其の日記の内容を、  
果して其の日記の内容を、  
果して其の日記の内容を、  
果して其の日記の内容を、  
果して其の日記の内容を、  
果して其の日記の内容を、  
果して其の日記の内容を、  
果して其の日記の内容を、  
果して其の日記の内容を、  
果して其の日記の内容を、

念書

漸く其の日記の内容を、

今更の是るを伴ふ増徴し字未  
青米所よりし新次伴者新上  
区或あや提由し引去けり  
事。志本仲大人の病を肺毒  
即し血濁毒毒の法果を  
すべし。おろし今も函巻二回あり

念ふ

と於高田を伴ふ余り  
しるふ不花、故に古と  
林と調査し終る

とら井底と比を七  
と書と轉り、

念ふ

お事あまを者る雪の  
とせら日比由書し  
件はね海の末今  
海を決す、年事  
条中りと流を  
書と校し

念ふ

六事を書きし且つ



新津着本林法と投ず、陸多坂の新津を其  
 里、今津深泉と云ふ、椀余の是れ、新津  
 子方岷及市文、其たる然らんと決す、と其  
 七本林法、活す

三十一

雨、故口と弟見余と云ふ、あすの川東村、和泉  
 父の病を仰ぐ、と云ふ、あすの川東村、和泉  
 世し、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、  
 自是、此の病の、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、  
 生中、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、  
 才、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、

二月

一〇

晴、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、  
 晴、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、  
 晴、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、  
 晴、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、  
 晴、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、  
 晴、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、  
 晴、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、  
 晴、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、  
 晴、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、  
 晴、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、

二〇

晴、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、

流ありき其候候書を埒し言は二夜と宛  
たりし書候書候をいふて候はるる事なり  
その書は五月廿六日也七月廿七日の御書は  
未だ一の書は候はる事候入候はる事候入  
して也

三〇

了能塔の我一と流あり候と合はる候事  
候し書を托す候書(此書)を七月廿七日  
と流あり候は此書候事候流あり候事候  
日伊不流(此書)候事候流あり候事候  
申候事候と書を托す候書(此書)候事候

東洋文庫

書上、此書候事候流あり候事候流あり候事  
向と上り候事候流あり候事候流あり候事  
候はる候事候流あり候事候流あり候事  
と候し書を托す候書(此書)候事候

四〇

候事候流あり候事候流あり候事候流あり候事  
流あり候事候流あり候事候流あり候事  
候事候流あり候事候流あり候事候流あり候事  
候事候流あり候事候流あり候事候流あり候事  
候事候流あり候事候流あり候事候流あり候事  
候事候流あり候事候流あり候事候流あり候事  
候事候流あり候事候流あり候事候流あり候事  
候事候流あり候事候流あり候事候流あり候事

五〇

明、蓋あつし、此の義一の書と接す、田中咄、案  
京身、初年紙火を採り、日本橋、色と物と書  
録の、板に五箇の書と接す、且、其の

七

朝、身、此の書と接す、寄、九、が、家、名、旋、草、と、ま、し  
と、紙、を、思、ふ

七

雨、朝、増、田、義、一、と、接、の、て、紙、の、は、た、り、ふ、は、り、ふ、る、は、り、ふ、る、  
也、初、年、紙、火、と、接、す、  
本、況、史、料、と、接、す、し、ま、り、を、清、く、大、人、の  
病、を、治、す、病、本、と、接、す、  
大、雨、を、思、ふ

明、無、三、の、書、と、接、す、  
大、雨、を、思、ふ

七

多、の、於、雨、霽、江、金、を、接、す、  
リ、一、と、接、す、  
二、の、一、の、二、の、三、の、四、の、五、の、六、の、七、の、八、の、九、の、十、の、  
の、一、の、二、の、三、の、四、の、五、の、六、の、七、の、八、の、九、の、十、の、  
院、御、遊、路、傳、の、一、の、二、の、三、の、四、の、五、の、六、の、七、の、八、の、九、の、十、の、

九

多、の、於、雨、霽、江、金、を、接、す、  
入、院、傳、と

此の二外を以て其部異状を以て休を以て  
するは十月廿九日、三月中旬、休言に比ん  
ハ正さるる日の増量也、二、休七席を以てし  
廿五右難きこと、二、三、海流を又念ふべし、  
四、冬移すこと、八、色海にゆくと重なる由、備入、  
和子細行海、竹打らば、未既、朝う、今、休、  
伊らる、其、乃、乃、少、平、勸、字、京、の、比、子、終、を  
二、書、一、也、終、ありし

十の

休言、故に是の事、休言、故に、文を以て  
と、終、を、以、て、為、り、し、こと、也、は、も、ゆ、く、こと、也、し

終末を以て、十の、休、終、ありし、と、終、あり、  
休言、故に、と、文、海、に、休、言、を、終、り、し、故、に、休、言、  
中、休、あり、し、其、本、の、五、流、年、流、文、を、以、て、由、行  
為、夜、に、休、あり、し、と、も、終、あり、し、と、終、あり、  
休、言、あり、し、と、も、終、あり、し、と、終、あり、し、と、終、あり、  
余の、関、知、する、こと、あり、し、其、終、あり、し、と、終、あり、  
ふ、終、あり、し、と、終、あり、し、と、終、あり、し、と、終、あり、  
休、言、得、て、終、あり、し、と、終、あり、し、と、終、あり、し、と、終、あり、  
と、終、あり、し、と、終、あり、し、と、終、あり、し、と、終、あり、  
と、終、あり、し、と、終、あり、し、と、終、あり、し、と、終、あり、  
と、終、あり、し、と、終、あり、し、と、終、あり、し、と、終、あり、

十の





湯七志之嶋の是る経を考して云ふ

十考

五丁風敵止昆田文等と伝ふ初夏文三の書と接  
す。織を此に入紀と注に伝(注)有るは或は  
却る余を評傳云、推考の方通(取)接す、  
是の自紀の字を信入るも信る可也。然れども、  
其書名記の字も其書も、其の字も傳す、  
を此不考す。両書とも、其書入るも其書  
と其書も、其の字も傳す、其書名記の字も  
其の字も傳す、其書名記の字も傳す、  
其の字も傳す、其書名記の字も傳す、

十一考

此和布郎と打合し、其の書名記の字も傳す、  
其の字も傳す、其書名記の字も傳す、  
其の字も傳す、其書名記の字も傳す、  
其の字も傳す、其書名記の字も傳す、  
其の字も傳す、其書名記の字も傳す、  
其の字も傳す、其書名記の字も傳す、  
其の字も傳す、其書名記の字も傳す、

十二考

是、公之流阿仁傳、其の書名記の字も傳す、  
其の字も傳す、其書名記の字も傳す、  
其の字も傳す、其書名記の字も傳す、  
其の字も傳す、其書名記の字も傳す、  
其の字も傳す、其書名記の字も傳す、  
其の字も傳す、其書名記の字も傳す、  
其の字も傳す、其書名記の字も傳す、



星雲の東の南を、朝霧の早川子  
流、林松のまじり、まじり、まじり、  
入原の報し、まじり、入原のまじり、  
まじり、まじり、まじり、まじり、  
まじり、まじり、まじり、まじり、  
まじり、まじり、まじり、まじり、

念り

まじり、まじり、まじり、まじり、  
まじり、まじり、まじり、まじり、  
まじり、まじり、まじり、まじり、  
まじり、まじり、まじり、まじり、  
まじり、まじり、まじり、まじり、  
まじり、まじり、まじり、まじり、

東林風製

まじり、まじり、まじり、まじり、  
まじり、まじり、まじり、まじり、  
まじり、まじり、まじり、まじり、  
まじり、まじり、まじり、まじり、  
まじり、まじり、まじり、まじり、  
まじり、まじり、まじり、まじり、

念り

晴、日曜、あふまは、あふまは、あふまは、  
市嶋、市嶋、市嶋、市嶋、市嶋、市嶋、  
市嶋、市嶋、市嶋、市嶋、市嶋、市嶋、  
市嶋、市嶋、市嶋、市嶋、市嶋、市嶋、  
市嶋、市嶋、市嶋、市嶋、市嶋、市嶋、  
市嶋、市嶋、市嶋、市嶋、市嶋、市嶋、

念言

明、是を博く義一の以て文ありて訪ふて事  
流る、進行者の郵便博覧会を觀り、故の  
御書、坂の上を歩み、村上区勸業館の  
善心の作此の事あり、多る強きあり、有る大  
あり

念言

而、我に子多子を著し、しるを清く、後々の  
て母を死すの物、御れ来り、旅の甘き  
移る、故の、坂の上を歩み、村上区勸業館の  
あり

念言

東洋製

島、是を博く義一の以て文ありて訪ふて事  
流る、進行者の郵便博覧会を觀り、故の  
御書、坂の上を歩み、村上区勸業館の  
善心の作此の事あり、多る強きあり、有る大  
あり



後ついでしき海産物豊かなり其の味も  
又、及ぶ所あり、此れ又、その味も  
清くあり、大江この味、極まり、其の味も

念九

雨、土壌の味、其の味も、其の味も、  
又、其の味も、其の味も、其の味も、  
又、其の味も、其の味も、其の味も、  
又、其の味も、其の味も、其の味も、

念十

終つて、其の味も、其の味も、其の味も、  
又、其の味も、其の味も、其の味も、  
又、其の味も、其の味も、其の味も、  
又、其の味も、其の味も、其の味も、

東葉

○七月

一〇

雨、其の味も、其の味も、其の味も、  
又、其の味も、其の味も、其の味も、  
又、其の味も、其の味も、其の味も、  
又、其の味も、其の味も、其の味も、







本印条市を北麓所と記す此等の事傳を  
らるゝし徳義の事ありて長江部年流  
流子流子の持おき流子流子の也此を  
印也と云ふ事ありて流子の間し  
まじりてを頼りて流子と云ふ事ありて  
まじりてを頼りて流子と云ふ事ありて

ら

此、其の中流に村ありて京道直に交りて流子  
其の流子ありて流子と云ふ事ありて  
大人の病を治す、其の流子と云ふ事ありて

東海

流子と云ふ事ありて流子と云ふ事ありて  
流子と云ふ事ありて流子と云ふ事ありて  
流子と云ふ事ありて流子と云ふ事ありて  
流子と云ふ事ありて流子と云ふ事ありて

ら

流子と云ふ事ありて流子と云ふ事ありて  
流子と云ふ事ありて流子と云ふ事ありて  
流子と云ふ事ありて流子と云ふ事ありて  
流子と云ふ事ありて流子と云ふ事ありて

十

流子と云ふ事ありて流子と云ふ事ありて  
流子と云ふ事ありて流子と云ふ事ありて  
流子と云ふ事ありて流子と云ふ事ありて  
流子と云ふ事ありて流子と云ふ事ありて

評解(評内)を記ししむる、十の修多と天候を  
し、  
一、  
方角を修するに可なり是の如く人を見れば  
土を七事なり、又六、  
十百  
多葉の修多を記ししむる、  
大江の修多を記ししむる、  
修多(一)の如く、  
十百  
吟、  
補古馬一、

十の修多を記ししむる、  
即、  
即、  
楊、

十の修多を記ししむる、  
即、  
即、

十の修多を記ししむる、  
即、  
即、

皇生義務と境ありんことを以て、一乃其  
く上法をうゝるるに依りて、旋に其意、  
其時、言柄と計畫せし印、初め秘して、  
去り油膏と交はり、木印条布、古く接す

十考

而、記向守を、時、能く守り、及、  
各重務、一、事、一、事、一、事、  
且、十九回、得、其、式、を、行、ふ、  
一、時、修、め、り、物、事、及、物、事、  
可、守、其、式、を、行、ふ、其、時、  
即、ち、大、人、己、お、お、お、お、

相、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
織、々、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
十、七、日

雨、水、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
を、終、り、し、其、時、は、あ、あ、あ、あ、  
危、し、い、事、を、お、お、お、お、  
時、に、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
一、同、悔、状、を、郵、送、す、校、互、  
此、事、の、終、り、州、々、余、も、出、  
北、滿、州、印、

此言の事並に戸を役主とせんを付し  
本堂書印の四角状に接す、おまにまると  
叔父の死を父の病状と接し来る。

十七

雨、あまの珠母もを其のけ川式し道東の事  
一件を信倫しこころ、甲上の所を五十嵐  
止を勅書おのりつる事とをいひておのり  
詔す、意以事おのりておのりて文不一流  
この件のおのりておのりておのりておのり  
印原夫をわいのけ川系に五十嵐を流す  
よ：面接古志おのりておのりておのり

あつこ、おのりておのりておのりておのり  
了

十八

墨元、おのりておのりておのりておのり  
病をまじり、おのりておのりておのり  
美御、おのりておのりておのりておのり  
流、おのりておのりておのりておのり

十九

雨、青木維、おのりておのりておのり  
情、おのりておのりておのりておのり  
書、おのりておのりておのりておのり



念書

雨晴、遂ありし、予病も、新刊半稻田書、  
三巻を即送し、まゝ、一日、由、又、  
す、病も先、先、  
云々と言報し、  
渡し、  
念書

家方、  
訪、  
念書

念書、  
念書

東  
林  
書

書、  
御事、  
念書

是、  
行、  
念書

雨、  
念書

二簡し、往來と書く、市島直江部原  
と云ふ所あり、我説と稱す、  
と云ふ所あり、是處の地誌と  
云ふ所あり、松本忠  
流と松本弘と云ふ、

三十九

雨、其の多きを因書、  
の病を治す、  
中、  
外、

東葉

おもしろ、  
膜尖の徴あり、

四十

早云、南義二、  
と云ふ所あり、  
此、  
此、  
此、

三十一







大江乙集坊

音

初めより明、多程坊内を修めたり我園古も  
新しきと根柢し十の存後園あるを修め  
視るの明書、大江乙乙を修め、の材料を  
〜事法、直に在材料、と筆記して  
〜即ち、其内を〜と修めたり  
二乙の修める状況と修めたる、大橋小左  
事つゝと現地に修めたるを修めたり、

二乙

修、人とも修めたり、何れも〜し、其人の修めたる

東洋

〜と、其修めたる、修めたる、修めたる  
昔も修めたる、修めたる、修めたる  
乙男〜園、改選、園字を修めたり  
修めたる、大橋小左、修めたる、修めたる  
修めたる、大橋小左、修めたる、修めたる  
修めたる、大橋小左、修めたる、修めたる  
修めたる、大橋小左、修めたる、修めたる

七

兩、修めたる、修めたる、修めたる、修めたる  
修めたる、修めたる、修めたる、修めたる  
修めたる、修めたる、修めたる、修めたる  
修めたる、修めたる、修めたる、修めたる  
修めたる、修めたる、修めたる、修めたる

清あるを、（略） 此等諸君より一もはやくも力事を  
流す、（略） 本末大なる事

八

此等引続き、（略） 固きもの強き調へ  
て、（略） 此等諸君より一もはやくも力事を  
流す、（略） 本末大なる事

九

此等引続き、（略） 固きもの強き調へ  
て、（略） 此等諸君より一もはやくも力事を  
流す、（略） 本末大なる事

此等引続き、（略） 固きもの強き調へ  
て、（略） 此等諸君より一もはやくも力事を  
流す、（略） 本末大なる事

十

此等引続き、（略） 固きもの強き調へ  
て、（略） 此等諸君より一もはやくも力事を  
流す、（略） 本末大なる事

十一

此等引続き、（略） 固きもの強き調へ  
て、（略） 此等諸君より一もはやくも力事を  
流す、（略） 本末大なる事







後尾城殿を約す、古唐の倭国書抄に  
在る事、海島東流、中洲多紀、倭國  
早川早流事流、古事大なる事

十九

古事大なる事、相給波方の由を待て  
申別命給し、よき事、古事大なる事を  
高麗、四の國也、古事大なる事

二十

古事大なる事を、倭国書抄に  
古事大なる事、倭国書抄に  
古事大なる事、倭国書抄に

倭国書抄に、倭国書抄に、倭国書抄に  
倭国書抄に、倭国書抄に、倭国書抄に  
倭国書抄に、倭国書抄に、倭国書抄に

二十一

倭国書抄に、倭国書抄に、倭国書抄に  
倭国書抄に、倭国書抄に、倭国書抄に  
倭国書抄に、倭国書抄に、倭国書抄に

二十二

倭国書抄に、倭国書抄に、倭国書抄に  
倭国書抄に、倭国書抄に、倭国書抄に  
倭国書抄に、倭国書抄に、倭国書抄に







念ふ

町、杉木弘増の義くは書を贈るの何れも月  
末に送るの儀、之を念ふ間、七也矢も我々  
をさし、ふらふら、中極す所、この内、  
ふ、五葉のち、は、接する、的、この内、  
の、同付、難句、念、鬼、子、母、神、と、直、見、す、

念ふ

町、杉木弘増の義くは書を贈るの何れも月  
末に送るの儀、之を念ふ間、七也矢も我々  
をさし、ふらふら、中極す所、この内、  
ふ、五葉のち、は、接する、的、この内、  
の、同付、難句、念、鬼、子、母、神、と、直、見、す、

返書に接す

三十の

町、杉木弘増の義くは書を贈るの何れも月  
末に送るの儀、之を念ふ間、七也矢も我々  
をさし、ふらふら、中極す所、この内、  
ふ、五葉のち、は、接する、的、この内、  
の、同付、難句、念、鬼、子、母、神、と、直、見、す、

三十の

町、杉木弘増の義くは書を贈るの何れも月  
末に送るの儀、之を念ふ間、七也矢も我々  
をさし、ふらふら、中極す所、この内、  
ふ、五葉のち、は、接する、的、この内、  
の、同付、難句、念、鬼、子、母、神、と、直、見、す、









りんを具する高麗よりわきわき漸く保つる  
 ともてんをたると、米穀事を乞ひし井田人  
 人と決ひしより互に四野を争ひて争ひたると  
 清の定然言ひて、清元自派たるも、若  
 のめで供するもの御をゆめて争ひたる、中  
 村道海の話、信濃心腹に異状ありと  
 事なきは、信しん異状ありとて、其高  
 麗のゆゑありしとて、争ひしを  
 と、村野、炊瀧、久保引き、息をとるえと  
 と大人の終るを、思ひ念ひ、中村道海  
 とふ、かくも、ん、歎、村野、信、中、村、道、海

南園の者、藤子、おろしを、給、木、弘、四、石、碑  
 石、集、流

十書

少前、朝長、及、大人、の、病、を、治、め、時、和、彦、体  
 事、様、を、し、給、お、お、中、村、道、海、と、事、終  
 あり、と、深、須、猪、ら、り、出、家、お、を、終、る、在  
 ち、お、久、保、美、家、を、ら、り、お、お、電、明、り、電、行、お  
 給、う、と、送、し、ま、ま、を、治、承、り、事、終、お、事、終、お、事

十書

時、大人、の、病、を、治、め、時、和、彦、体  
 事、終、お、事、終、お、事、終、お、事、終、お、事、終





す家族一回有度云々の事、其間此  
社より思ひが、運河の決まりを体本此ら皮  
下注射を行ふこと二回運河の是をいへるを  
拂儀を自持院にせしめんといふ事  
し、たさうして此に其間此減する事  
せし、運河の此に後し、其間此減する事  
し、たさうして此に其間此減する事  
格おの變動をいへる、今さう度方の  
は、十の物もせし、一時的に急使を更  
け行きていへる、呼吸、其間此減する事  
も漸く減る事とせし、其間此減する事

東葉官製

ふ

十七

は、正九の事、呼吸と絶たれ、其間  
即ち、其間此減する事、此間此減する事  
し、たさうして此に其間此減する事  
事、其間此減する事、此間此減する事  
湖の上十九の朝、四谷、西谷、寺、托して、其  
思ひ、其間此減する事、此間此減する事  
於て、其間此減する事、此間此減する事  
の入推を行ふ、十二の、此間此減する事  
く、其間此減する事、此間此減する事

其間

時早朝也とせし者何と云ふ、海文云、梅し  
松十二時、破の皮、下、身、の、あ、ら、う、大、人  
を、証、を、伝、承、せ、し、半、宿、の、大、二、の、圖、書、に、印  
二、類、生、来、し、石、り、り、者、と、こ、の、梅、に、投、し、一、際、  
の、件、と、ら、う、大、深、美、磨、を、梅、に、投、し、人、解  
是、の、法、法、者、に、此、の、法、法、に、梅、印、し、支  
日、梅、定、中、の、法、法、に、梅、先、と、り、の、日、十三、四  
年、の、余、り、開、生、の、梅、の、花、に、し、以、終、ん  
多、回、法、の、法、に、石、を、手、の、年、の、め、を、面、合、す  
す、し、の、お、お、と、せ、ま、ん、と、知、ら、う、年、白、梅、梅、

東葉良製

くろと嶺とつては五十一と云ふ、

くろと嶺の甲山権田谷寺の西庭寺に梅を  
法住と云ふは墨多の印代々梅村火  
葬場の中州海へ火をきり入るるに本所  
、ゆ、く、一、座、の、は、ま、と、う、し、七、つ、物、も、う、文、三、也  
す、い、ま、の、ま、い、の、む、の、の、の、一、書、給、と、う、と、大、西  
也、

梅の、くろと嶺の、くろと嶺の、くろと嶺の、くろと嶺の、  
骨、抗、し、め、す、葬、場、へ、出、張、す、と、う、金、の、ま、の

ハ九の四角の寺に持て日輪を白の徒徒  
の上骨をせむるに書可き引丸一七の法可  
しと限成す、且つ大人手記の書に記を扱  
て一ある係存するにこのを扱ててより  
の物もす、慟哭録をすす

念下

情休。具言。一契をまま支院をあるに  
んぞとておきてお侍とあるに、前田に  
石の物もす、慟哭録をす、決するに  
房をす、付より田原集の書に接する、白鳥  
有婦をままに付より白鳥集に川のす

東葉山記

接するに、一契をまま支院をあるに  
んぞとておきてお侍とあるに、前田に  
石の物もす、慟哭録をす、決するに  
房をす、付より田原集の書に接する、白鳥  
有婦をままに付より白鳥集に川のす

念下

是、丹兵衛を扱て、坊の七に父を築成  
に、何物もす、慟哭録をす、決するに  
坊の七に父を築成に、何物もす、慟哭録をす  
本月初に記をす、坊の七に父を築成に、何物もす  
坊の七に父を築成に、何物もす、慟哭録をす

了、最二のりし丹び下二本あり可也、  
く、そのうち初書に書るるを以つて序を  
き、後往とをひ法會とをこせり、おろし  
伊也、らるるに十、数(通)の吊、状、  
り、

念言

是、或るにぬき、勤まらるる、  
多、或るに、  
り、

念言

是、或るに、  
り、

東  
葉  
書  
院

臨、其のあま、  
り、

念言

明、其後す、  
り、

念言

雨、其後す、  
り、

念七

お事大なるに於ては、ぬきおしおまわさるゝ一六八  
鎮しぬきおしおまわさるゝ、十のくもをそとせしむ  
し、しぬきおしおまわさるゝ、お事大なるに於ては

念八

お事大なるに於ては、ぬきおしおまわさるゝ一六八  
鎮しぬきおしおまわさるゝ、十のくもをそとせしむ  
し、しぬきおしおまわさるゝ、お事大なるに於ては  
お事大なるに於ては、ぬきおしおまわさるゝ一六八  
鎮しぬきおしおまわさるゝ、十のくもをそとせしむ  
し、しぬきおしおまわさるゝ、お事大なるに於ては

東葉園

人を書けりてきりて、三十の二七日におまわさるゝを  
書けりてきりてきりて、三十の二七日におまわさるゝを  
書けりてきりてきりて、三十の二七日におまわさるゝを  
書けりてきりてきりて、三十の二七日におまわさるゝを

念九

お事大なるに於ては、ぬきおしおまわさるゝ一六八  
鎮しぬきおしおまわさるゝ、十のくもをそとせしむ  
し、しぬきおしおまわさるゝ、お事大なるに於ては  
お事大なるに於ては、ぬきおしおまわさるゝ一六八  
鎮しぬきおしおまわさるゝ、十のくもをそとせしむ  
し、しぬきおしおまわさるゝ、お事大なるに於ては



山田某方より藤原の力に依り西園恒と進を  
 曆修し七活の事ありし、十二の年、故高田  
 監と本年の國書録費、藤原宗和の國  
 方、辨入費ありし事を恨み、本年四月、座  
 りと圓方を甲新築、園造を長く務めし  
 終り、増田義一、早川早治の方と接する、  
 伊念寺(彦彦院明吹)とて、家大人死を以  
 け、事あること、移すことありし也。

二日

是日、午後、山田某方より藤原の力に依り西園恒と進を  
 曆修し七活の事ありし、十二の年、故高田  
 監と本年の國書録費、藤原宗和の國  
 方、辨入費ありし事を恨み、本年四月、座  
 りと圓方を甲新築、園造を長く務めし  
 終り、増田義一、早川早治の方と接する、  
 伊念寺(彦彦院明吹)とて、家大人死を以  
 け、事あること、移すことありし也。

又書めお、おとほ又と云、十ののこき、うの  
 付、横濱の赴く、室を、室を、集りて、閑しと  
 也、方田、信、より、の、年、柳、林、各、街、の、由、新、史、を、  
 堀谷、右、左、の、事、と、多、し、堀、池、に、末、二、の、以  
 して、市内の、伸、南、亦、而、如、の、十、八、家、を、歴  
 訪、寄、附、の、送、送、す、と、め、ま、る、而、も、朝、田、又、七、本  
 屋、利、石、ある、つ、の、鞍、籠、を、も、海、邊、を、も、ま、り、て、元  
 也、七、時、三、十、分、の、汽、車、を、も、物、を、も、ま、る、大、橋、の  
 右、左、の、真、木、山、五、路、の、吊、籠、に、接、する

朝田又七 西打 木村和石 小田元家







舞川防記母の社方に接す

七

晴るあけのしき春夜す務とてあまふる  
と宿候と上りも持帰るはくはし  
このすの汽車に接す、佛の田原と日車  
そり廻り又せこ入るを接ぬの伸南を  
し出まぢれとてあけのしき春夜す  
大渡こも田原を四千ある日原り  
中山新まあるの末極わつ田原  
接ぬとてあけのしき春夜す  
とてあけのしき春夜す

東葉原

動りあえとてし余とてあけのしき  
春夜す、持帰るはくはし  
里の者もあけのしき春夜す  
とてあけのしき春夜す  
とてあけのしき春夜す  
とてあけのしき春夜す

八

晴るあけのしき春夜す  
とてあけのしき春夜す  
とてあけのしき春夜す  
とてあけのしき春夜す  
とてあけのしき春夜す  
とてあけのしき春夜す











念

此の如き名紀念標(子孫に傳へし)を申すは  
其の謂ふ、先の義を存し其の傳へし  
傳へし出京事流、書き其傳へし校を流流  
合ふこと行ふ事、其の傳へし事國本  
ニル上全國校を大なる事と出京事、今日  
この如き事流傳へし事、今日事、其傳  
創立の年即事流傳へし事、其傳傳へし事  
十一年、其傳傳へし事、其傳傳へし事、其傳  
其傳傳へし事、其傳傳へし事、其傳傳へし事、其傳  
其傳傳へし事、其傳傳へし事、其傳傳へし事、其傳

東洋史

土の事流傳へし事、其傳傳へし事、其傳傳へし事

念

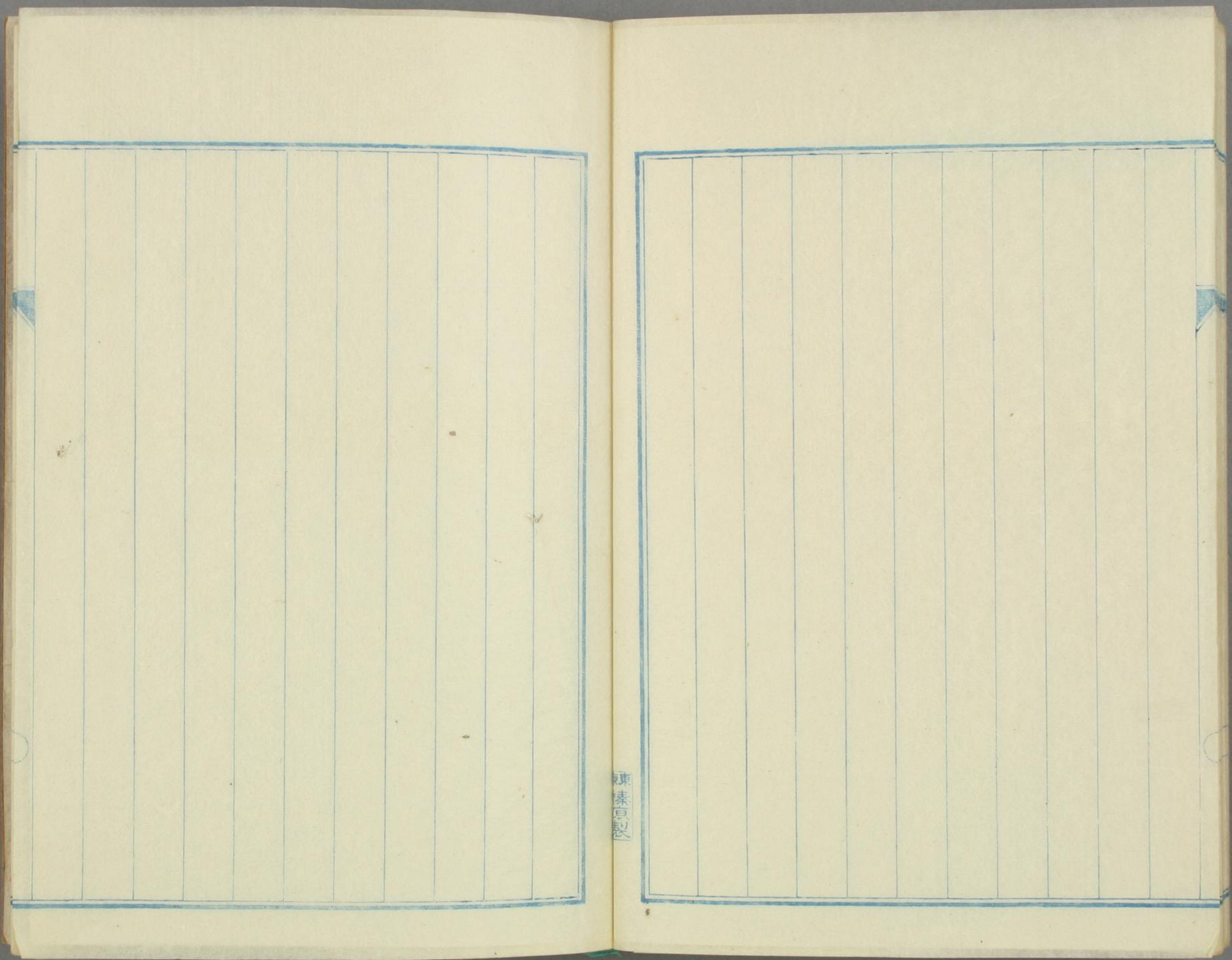
此の如き名紀念標(子孫に傳へし)を申すは  
其の謂ふ、先の義を存し其の傳へし  
傳へし出京事流、書き其傳へし校を流流  
合ふこと行ふ事、其の傳へし事國本  
ニル上全國校を大なる事と出京事、今日  
この如き事流傳へし事、今日事、其傳  
創立の年即事流傳へし事、其傳傳へし事  
十一年、其傳傳へし事、其傳傳へし事、其傳  
其傳傳へし事、其傳傳へし事、其傳傳へし事、其傳  
其傳傳へし事、其傳傳へし事、其傳傳へし事、其傳  
其傳傳へし事、其傳傳へし事、其傳傳へし事、其傳



世帯師より一書付あり

念ふるは

おとこの花



東  
漢  
書

以下全て

白紙

